

便利になった！ でも...

総合情報処理センター長 武田 廣

115 通。これは、1 週間の出張を終えて大学に出勤したときに、計算機に入っていた私宛ての電子メールの数である。8年間連れ添った旧式のマッキントッシュで読み込むこと約 10 分。メールの内容の大雑把な内訳は、

総合情報処理センター関係	22 通
外国の研究者から	47 通
国内の研究者から	15 通
学内連絡事項	6 通
学科内連絡事項	12 通
研究室内連絡事項	13 通。

緊急に返事のメールを出さなければいけないもの、手帳の予定表に写しておくもの、一応呼んでメールの整理箱にしまっておくもの、ごみ箱に直行するもの（メールを下さった方ごめんなさい）、中身の重要度はさまざまである。旧時代に属する人間の性として、特に重要と思われるメールはプリントアウトして、別途ファイルしておく。ペーパーレス時代の先鞭をつけるとされる電子メールの中身を、わざわざプリントアウトすることは資源の無駄使いとのおしかりを受けることは承知しているが、「計算機とは、誤動作をするもの、壊れるもの」との信念を持っている私には、そうしておかないと落ち着かない。

途中で会議などで中断したものの、この 115 通の電子メールの処理に丸1日を費やした。大変な情報量である。この間にも、マッキントッシュは「お邪魔します。新しいメールが届いています。」と割り込んでくる。こういう状況を、情報に追いまくられていると見るか、情報化社会の一員として認知されていると見るかは、判断の難しいところである。しかし、少なくとも私にとっては、「便利になった！」と感ぜざるを得ない。遠く離れたヨーロッパから、膨大な情報がたちどころに手元に届くなどということは、一昔前では考えもつかないことであった。

勿論、問題がない訳ではない。幸に、私のメール・ボックスにはいわゆるジャンクメールの類が入っていることは殆どないが、欲しくもない商品の宣伝、政治的・宗教的プロパガンダ、幸福（不幸）の電子メールなどを、どの段階でどう除去していくかは大きな問題になるだろう。車社会が浸透していった時に必要とされた、「車は左、人は右」、「赤信号で停止、青信号で進め」といった基本的なルールの確立が情報化社会の交通手段にも求められていることは言うまでもない。情報は国境を越えて飛びかっているわけだから、そのルールはグローバル・スタンダードとして機能しなければならない。勿論、地域・人種・言語の特殊性を付加的に入れる必要があるだろうけれども。

こういった情報化社会の進展に伴い、我々人間社会の形態ひいては価値観なども大きく影響を受けるだろうということは、さまざまな形で指摘されている。電子マネーの普及により経済活動もさまざなりするだろうし、教育形態も変わっていかざるを得ないだろう。我々の周りを飛び交う大量の人工的な電磁波は、いつか環境問題の一つのテーマになるかもしれない。

一物理学者(私のこと)の眼から眺めてみると、社会構造をも変革するような情報化の波の本質的な基盤を構成しているのは、基礎科学の地道な一分野「電磁気学」であると思う。(途中経過をはしょっていきなり我田引水的に原理・原則の話に飛んで行くのは物理屋の長所でもあり、短所でもあるのですが。)米国の天才物理学者ファインマンの言葉を引用する。

「人類の歴史という長い眼から、たとえば今から1万年後の世界から眺めたら、19世紀の一番顕著な事件がマクスウェルによる電磁気法則の発見であったと判断されることはほとんど間違いない。アメリカの南北戦争も同じ頃のこの科学上の事件に比べたら色あせて一地方の取るに足らぬ事件になってしまうであろう。」(ファインマン物理学Ⅲ「電磁気学」宮島龍興訳 岩波書店)

ファインマンは1988年に他界したのだが、近年のインターネットなどの隆盛を眼にしていたなら、その意を強くしたに違いない。情報化社会への変貌も、我々が手にした「電磁気学」の壮大な科学的・社会的応用問題の一つかもしれない。

話が発散ぎみになってきたので、そろそろ筆を置きます。最後に、情報化社会に生きる人間にとって、情報の受信者・発信者としての個の確立が重要になると思われます。あふれる情報を取捨選択し、発信すべき情報を持ち合わせていなければ、「情報のゴミ」の中に埋もれてしまうだろう。総合情報処理センターとしては、情報化社会での快適なインフラ・ストラクチャを提供すべく日夜努力を続けておりますので、皆様の御支援・御協力をお願い致します。